

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

サヤエンドウ

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	灰色かび病	炭疽病	苗立枯病	褐斑病	褐紋病	菌核病	うどんこ病	茎腐病	根腐病	さび病	先端黄白化症
Zボルドー水	無機	M1		-	-											◎
サブロール乳	DM I	3		1	3							◎				
トリフミン水	DM I	3		1	5							◎				
ラリー水	DM I	3		1	3							◎				
アミスター20FL	Q o I	11		1	3	◎				◎	◎					
ファンタジスタ顆水	Q o I	11		1	3	◎					◎				◎	
カンタスDF	アミド	7		1	2	◎										
ロブラール水	ジカルボキシイト*	2		1	3	◎										
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1		1	3	◎			◎	◎						
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1		1	3						◎					
ペンコゼブFL	有機硫黄	M3		*c	2				◎	◎						
サンヨール乳	有機銅	M1		1	4	◎						◎				
リゾレックス水	有機リン	14		7	2								◎			
				*b	1			®					◎			
カナメFL	他	7	劇	1	4	◎					◎				◎	
ケンジャFL	他	7		1	2	◎										
セイビアーFL20	他	12		1	3	◎					◎					
タチガレン液	他	32		*a	3									◎		
プロバティFL	他	50		1	3							◎				
シグナムWDG	Q o I・アミド	11・7		1	2	◎						◎			◎	
ゲッター水	ベンゾイミダゾール・ベンゾイミダゾール	10・1		1	3	◎										
ニマイパー水	ベンゾイミダゾール・ベンゾイミダゾール	10・1		1	3	◎	◎				◎					

*a: 播種後及び生育期(但し播種後1~2か月後まで) *b: 播種時 *c: 収穫開始30日前まで
 ®: リゾクトニア菌による病害

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	コ ナ ジ ム シ 類	カ メ リ バ エ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	ダ イ ズ ク キ モ グ リ バ エ 類	ウ ラ ナ ミ シ ジ ミ 類	マ メ シ ン ク イ ガ 類	シ ロ イ チ モ ジ マ ダ ラ メ イ ガ 類	ウ メ ヒ メ サ ヤ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	マ メ ハ ン ミ ヨ ウ 類	ハ ノ ブ セ ン チ ユ ウ 類	
ゼンターリ顆水	BT	11A		*b	-										◎						
アタブロン乳	I GR	15		1	2												◎				
カスケード乳	I GR	15		1	2												ハ◎				
ノーモルト乳	I GR	15		1	2												◎				
マトリックFL	I GR	18		1	3												ハ				
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B		*e	1																◎
ニッソラン水	殺ダニ	10A		1	2																◎
フェニックス顆水	ジアミド*	28		1	2												ハ◎				
プレバゾンFL 5	ジアミド*	28		1	3					◎							ハ				
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	ネニコチノイド*	4A		1	2	◎		◎	◎	◎											
アルバリン粒 スタークル粒	ネニコチノイド*	4A		*c	1				◎												
モスピラン顆溶	ネニコチノイド*	4A	劇	1	3	◎	◎	◎													
パダンSG溶	ネイストキシ	14	劇	1	3					ナ	◎										
アディオン乳	ピレスロイド*	3A		1	3					ナ	◎						◎	◎			
トレボン乳	ピレスロイド*	3A		1	2						◎						ヨ◎				
トレボンEW	ピレスロイド*	3A		1	2						◎						◎				
マブリック水20	ピレスロイド*	3A	劇	1	3			ヒ													
アニキ乳	マクロライド*	6		1	3					◎							ハ				
アフーム乳	マクロライド*	6		3	2												ハ				
カルホス粉	有機リン	1B		*a	1													◎			
ダイアジノン乳40	有機リン	1B	劇	*d	3	◎															◎
マラソン粉3	有機リン	1B		7	3	◎	◎			モ	◎	◎	◎	◎	◎				◎	◎	
ウララDF	他	29		1	2	◎															
コテツFL	他	13	劇	1	2												ハ				◎
コルト顆水	他	9B		1	2	◎															
ハチハチFL	他	21A	劇	1	2					ナ											

*a:播種時 *b:発生初期(但し収穫前日まで)

*c:生育期(但し収穫14日前まで) *d:収穫開始14日前まで *e:植付前

ナ:ナモグリバエ ハ:ハスモンヨトウ ヒ:ヒラズハナアザミウマ

モ:ハモグリバエ ヨ:ヨトウムシ

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病		1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ゲッター水和剤● 1500倍 カンタスドライフロアブル 1000倍 セイビアーフロアブル20 1000倍 トップジンM水和剤● 2000倍 ファンタジスタ顆粒水和剤 2000倍 ロブラール水和剤● 1500倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。
褐斑病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 次の薬剤を発生初期に散布する。 トップジンM水和剤 2000倍	
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
褐紋病	生育期	1. 過繁茂を避け、適切な整枝を行う。施設では過湿に注意する。 2. 次の薬剤を発生初期に散布する。 トップジンM水和剤 2000倍	褐斑病と混同されがちであるが、本病は葉にやや大型の円形病斑をつくる点で区別できる。
	収穫後	・収穫後の茎葉は集めて処分する。	
うどんこ病	生育期	・発病初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 サプロール乳剤● 1500倍 サンヨール(乳) 500倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 ラリー水和剤● 4000～8000倍	施設では2月ごろから、露地では4月頃から発生する。特に収穫期にかけて多い。 ●DMI剤は耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
根腐病	播種前	1. 連作を避ける。 2. 登録のある薬剤を確認し、土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。	病原菌は土壤伝染する。
	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を土壤灌注する。 タチガレン液剤 500～1000倍 3ℓ/m ²	

サヤエンドウ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	1. 施設では近紫外線除去フィルムを展張し、開口部には目合い1mm以下の防虫ネットを張る。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダイアジノン乳剤40 1000倍 マラソン乳剤* 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	* 豆類(未成熟)での登録
ナモグリバエ	生育期	1. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを株元に散布する。 アルバリン粒剤# 9kg/10a スタークル粒剤# 9kg/10a 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 パダンSG水溶剤 1500～3000倍 アディオン乳剤 3000倍	# ハモグリバエ類での登録
ウラナミシジミ	初冬～春期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 3000倍	伊豆諸島の暖地で発生が多い。
ウリノメイガ	生育期(発生初期)	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ゼンターリ顆粒水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	
シロイチモジヨトウ	生育期	・発生を見たら次のいずれかの薬剤を散布する。 カスケード乳剤 4000倍 デルフィン顆粒水和剤* 1000倍 トレボン乳剤 1000倍	* 野菜類での登録
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ニッソラン水和剤 2000～3000倍	